2005 年度

GNC 活動報告

平成 18 年 3 月

GNC
Japan
Global Network for Coexistence

2005 年度GNC春季モンゴルエコツアー概要報告

実施日程:2005 年 5 月 7 日～5 月 14 日

ツアー参加者	古川奈緒子(新潟県立高校勤務)
講師	大西　郁(GNCスタッフ)
GNC日本スタッフ	宮木いっぺい(代表)　松橋希世貴(理事)　矢野明子(事務局)
GNCモンゴルスタッフ	E・Tsogtsaikhan　ツォゴー　(モンゴル代表)、Batbayar Nasanbilig　ナスカ　(理事)
	Bayarkhuu Norjmaa　ノヨ　(現地事務局)
同行通訳	Batchuluun Demchig　デミ　(在日モンゴル留学生の会代表)

＜モデル農場での第 18 学校・第 108 学校・GNC特別授業＞ 5 月 9 日

参加者
:日本からの参加者 5 名(GNCスタッフ、同行通訳)、現地スタッフ 3 名
講師　大西　郁さん、第 18 学校生徒　16 名、同行教師　2 名　第 108 学校生徒　19 名　同行教師　3 名

昨年に引き続き、第 2 回 『モデル農場でのGNC特別授業』 を行いました。今回は、さらにその輪が広がり、日頃から環境教育にとても熱心である第108学校の生徒さんたちも加わり、両校合わせて 40 名余りが参加し、①GNCの活動紹介(昨年実施した愛・地球博モンゴル国際植樹祭の模様など DVD で紹介)②第 18 学校の生徒による発表「環境について思うこと」③特別授業「身近な環境を守ること」講師　大西　郁さん　④アニメ「木を植えた男」鑑賞　⑤ハウスでの実習(花の種の紙ポット植え、防風林のためのポプラの挿し木栽培)を実施しました。特に③のテーマの中で講師の大西さんが提起した「身近なゴミ問題」についてはみなさん、とても興味をもっているようで、日本での日常的なゴミ対策(収集方法や処理方法など)についての質問が集中しました。そしてなにより、嬉しかったことは、この特別授業の成果でしょうか、後日、第108学校において、校内のゴミ拾いの実施に繋がったことです。この授業をきっかけに皆さんの、ゴミ問題を含め、「身近な環境を守っていこう」 という気持ちが深まっていってくれることを願います。

生徒たちが農場へ到着！

第 18 学校のみなさん

第 108 学校のみなさん

宮木代表による GNC 活動紹介

第 18 学校の生徒達による発表

大西郁さんによる特別授業「身近な環境を守ること」

ツアー参加者の奈緒子さんによる
日本の「自然観察」の授業の紹介

ゴミ問題について、みなさん
とても熱心に質問してくれました

楽しいランチタイム　メニューはハンバーガー

楽しいランチタイム！その後のゴミ捨ても、実際に分別しながら行ないました。皆さんの努力でモンゴル国でも分別収集が一日でも早く実現することを願って止みません。
ハウスでの実習は各自がひまわり、パンジー、 葉牡丹の中から2種類の種を選んで、紙ポットに撒きました。みなさん、これから、自宅へ持ちかえり、水遣りをし、成長と共に、植え替えを行なって行くための説明を真剣に聞いていました。きっと素敵な花を咲かせてくれることでしょう！次回再会の折、嬉しい報告を沢山聞かせてもらえることを楽しみにしています。

ていねいに紙ポットに種を撒きました　どうぞ美しい花が咲きますように･･･

防風林のためのポプラの挿し木作業

ハウスで全員集合！

＜第 63 学校野菜作り支援＆第108学校訪問＞ 5 月 11 日

参加者　日本からの参加者 5 名（GNCスタッフ、同行通訳）、現地スタッフ 2 名

昨年に引き続き、今年も第 63 特別学校の野菜作り授業のサポートを行ないます。GNCとしてはハウスにかけるビニールとスコップなど耕具を寄贈しました。訪問した時ちょうど生徒達が元気に種蒔きの準備のための土おこしをしているところでした。別れ際、「秋には沢山野菜を収穫しますから、必ず見に来てくださいね！」とみな笑顔で言ってくれました。昨年の経験を生かして、今年はより多くの収穫があること祈っています！。私達帰国後、現地スタッフと子供達とで、防風のためのポプラ 50 本（GNC支援）を植樹したとの報告がありました。

「今年も野菜作り授業頑張ってください」
宮木代表よりハウス作りのためのビニール贈呈

みなで種蒔きに備えて土地おこしをしていました。
今年、GNC からスコップと鍬を寄贈しました。

今年は更なる豊作を祈りましょう！！

今年初めて訪問した第108学校では、環境教育の様々なプロジェクトを立ち上げ、その創立当初から実施し続けています。また、美術、音楽など芸術分野にも力をいれ、校内には生徒達の見事な作品が壁一面に飾られていました。GNCが訪問した日は、ちょうど、自然環境について、教科書と先生の授業といった単純なものばかりでなく、ひとつのテーマに関して理学系と地理学系など複数分野からのアプローチを積極的により実践的に取り組んでいくための **実習教育センター**の開設セレモニーが開かれていました。この開設を記念して、GNCから苗木（楡、スグリなど）を贈呈し、ともに記念植樹しました。

第 108 学校は設立当初から環境教育に熱心に取り組んでいます

環境教育について熱く語る校長先生

『オルホン河』という作品で日本でも有名な画家ツェレンナドミディン・ツェグミド氏も美術の指導を行なっています。

実習教育センターの開設記念セレモニー
宮木代表もテープカット

先生方によるモンゴル民俗音楽の演奏も素敵でした

実習教育センターの開設を祝って、GNC より苗木を寄贈、みなさんと共に記念植樹しました。

＜モンゴル国立大学エコロジー教育センター訪問＞ 5 月 13 日

—第 2 回セミナー 開催 ＆ 植物園開設予定地での記念植樹—

参加者
日本からの参加者 5 名
講師 大西 郁さん GNC スタッフ 3 名 、同行通訳
バザルドルジセンター長、モンゴル国立大学エコロジー教育センターの教師 今春卒業生 80 名
モンゴル国立大学生 20 名 モンゴル国立大学エコロジー教育センター高校生 20 名

モンゴル国立大学エコロジー教育センターはモンゴル国での自然環境分野のより優れた専門家を早期から育成するため、全国から選抜された高校生の集まる教育機関です。今年は ①「GNC設立趣旨と最近の活動について」（GNC 宮木代表）②「エコロジー教育センターの設立時からの活動について」（バザルドルジセンター長）③「日本の農業の経過—水を通して—」（日本からの同行講師 大西郁さん）、そして昨年 9 月、モンゴル国立大学円形講堂で当センターの協力も得ながら開催しました「愛・地球博開催記念フォーラム」とセレンゲ県トジンナルスでの「モンゴル国際植樹祭」の映像を鑑賞し、その記念DVDを贈呈しました。

「GNC設立趣旨と最近の活動について」（GNC 宮木代表）　「エコロジー教育センターの設立時からの活動について」（バザルドルジセンター長）　「日本の農業の経過ー水を通してー」（日本からの同行講師大西郁さん）、

この日、当センターと GNC との共同プロジェクトで開設予定である「エコロジー植物園」内で、卒業生たちと共に日本の桜、アカマツ、白樺など数種類の苗木 82 本を記念植樹しました。今後も、モンゴルに原生する植物の種類をより充実させて植樹していくことにGNCとして引き続き協力していきます。私達帰国後、植物園内とセンターの周りのゴミ拾いを実施し、見違えるほどきれいなったとの報告がありました。

卒業記念植樹会開会の挨拶をする
センター長バザルドルジ先生

今年卒業の学生 80 名が集まっています

植物園の開設に向けて願いを込め
今年も 記念植樹

数学、物理、生物など各専攻学科によって
植樹エリアが決まっています

センター職員のみなさん担当の植樹エリアです。

昨年の卒業記念に植樹した潅木に美しい花が咲いていました

。

こちらの学科のみなさんはアカマツ植樹担当です。

エコロジー植物園の今後の予定としては、園内のベンチ、休憩コーナー（日本で言う藤棚のようなイメージもの） 池などを増設していく予定です
ウランバートル市より 2005 年植物公園造園事業分野において最優秀賞を受賞したとの嬉しいニュースもありました。
バザルドルジセンター長はこの植物園作りをきっかけに、センターの職員の方達が一体感をもって管理していく体制が生まれたとおっしゃっていました。
また、センター付近の住民からもとても喜ばれ、植物園つくりに参加したいという人たちもあらわれたそうです。最近では乳母車をひいた若いお母さんたちの散歩する姿も見られるようになりました

＜全体交流会＞ 5 月 12 日 ビシレルトホテルにて

今年はとても若い世代の皆さんが多く集まってくれました。（第18学校、第108学校の生徒さんたち、エコロジー教育センター学生さん） 皆さんと共に未来へ続く新たな何かを生み出していけるようなそんな予感のする素晴らしいツアーになりました。この出会いを大切に育て、そしてより広げていきましょう！

パーティー最後には　恒例になった 「幸せなら手をたたこう！」を
それぞれの国の言葉で
歌って　踊りました

みなさん、秋にも又元気に
会いましょう！

2005年度GNC秋季モンゴルエコツアー概要報告

実施日程：2005年9月 17 日～9月24日

ツアー参加者（学生）	オルホン（通訳、在日モンゴル留学生、大学院生）エンフツェツェグ（モンゴル、大学生）、ガンゾー（モンゴル、大学生）ニャマー（モンゴル、大学生）、エンヘー（モンゴル、大学生）ウラナー（モンゴル、大学生）、森泉恵子（日本、大学生）
GNC日本スタッフ	宮木いっぺい（代表）　矢野明子（事務局）
GNCモンゴルスタッフ	E・Tsogtsaikhan　ツォゴー　（モンゴル代表）、Bayarkhuu Norjmaa　ノヨ　（現地事務局）

＜セレンゲ県スフバートル近郊トジンナルスでの植林＞2005年9月19日～20日　（ダルハン泊）

参加者
日本＆モンゴル国　学生　7 名　GNC スタッフ 3 名
森林動物センター長ジャムスランさん　植林専門家　2 名　アルタンブラグ村の人々10 名

2004 年 5 月から開始したセレンゲ県スフバートル近郊トジンナルスにおける森林火災跡地での植林も今回で 3 回目となりました。今年は 10haの土地に、地元アルタンブラグの皆さんと共に 3 万本のアカマツ（2004 年より通算 30ha　9 万本）のうちおよそ 4000 本を植林しました。このように地元のみなさんと協働していくことは、今後、GNC が長期に渡りこの地で森林再生事業を続けていく上で、とても大切であり、心強いものであると実感できました。また、自然環境について勉強しているモンゴル国立大学の学生をはじめとするモンゴルの若者たちの参加により、さらに充実した活動として広がっていくことが期待できます。

今後も、セレンゲ県森林動物センター長のジャムスランさんをはじめとするたくさんの地元の方々、そして学生たちとのつながりを大切にし、数十年後の青々としたトジンナルスを目指し、この植林活動を続けていきたいと思います。

植林後の交流会

トジンナルスでの植林後、地元の方々が手作り料理でもてなしてくれました。ここで全員が改めて自己紹介をし、交流をさらに深めました。また、作業の後に食べる手作りのボーズは絶品でした。

＜第108学校保養施設訪問＞実施日：2005年9月21 日

参加者
日本＆モンゴル国　学生　7 名　GNC スタッフ 3 名
第 108 学校　校長　教師＆職員　5 名

前回のツアーから交流がスタートした第108学校の保養施設を視察しました。ゲルに泊り込んで、校長先生　同行された教師 3 名と共に、将来にむけてこの保養施設を中心とした総合的な自然環境保全教育地帯構想について話し合いました。今後も、検討を重ね、ひとつずつ実現していくことを確認しました。また、前日植林活動をしてきたトジンナルスより運んできたアカマツ 100 本をこの施設敷地内に記念植樹することにしました。 この日は積雪の地面に穴を掘って 10 本植樹しました。 GNCが関わってきたセレンゲ県の森林動物センターと第108学校が期せずして共通のアカマツで結ばれることになったのです。今年 10 年目を迎えたGNCのモンゴル国でのネットワークが確実に広がりつつあるのだと実感できた嬉しい瞬間でした。

2005 年 10 月より第108学校とは協働で、校内および地域緑化のための苗木作りをより充実させるための太陽光エネルギーを利用した温室作りを実験的にスタートしました。

＜第18学校での特別授業＞2005年9月22日

参加者
講師　森泉恵子(大学生)　通訳　オルホン　　アシスト　エンフツェツェグ(第 18 学校卒業生　大学生)
モンゴル国　学生　3 名　GNC スタッフ 3 名
第 18 学校日本語クラス 10 年生 19 名　担任　1 名

前回、前々回とGNCモデル農場で行ってきた特別授業を、今回は、GNC が第18学校を訪問する、という形で行いました。日本語クラス10年生の授業に参加し、日本からのツアー参加大学生森泉恵子さんが　ごみ問題(ダイオキシン)について、お話しました。近年のウランバートルでのごみ問題はとても深刻で、ダイオキシンの害もとても心配されます。現にほとんどの生徒が　初めて　ダイオキシン　という言葉を耳にしたということでした。ウランバートルの環境保全のためのきっかけにつながってほしいという思いから今回の授業は森泉恵子さんより提案されました。

　生徒たちはみんな熱心にダイオキシンの話を聞いてくれました。また、授業の最後には生徒一人ひとりから日本語で一生懸命感想文を書いてもらい、講師の森泉さんはとても感激していました。今後もこのような特別授業を続けていくことがとても重要なことだと改めて思いました。

エンフバット校長　エンフツェツェグさん(右端)は
当校の卒業生です

2002 年GNCがはじめて第 18 学校を訪れたとき当時在学していたエンフツェツェグさんらと共に植樹したポプラはこんなに大きくなりました。

2005 年 6 月友好植樹会で歌手でモンゴル親善大使の橋幸夫さんらと植樹したポプラも順調に活着していました。

＜モンゴル国立大学エコロジー教育センター内植物園開園式＞ 2005年9月22日

参加者
日本＆モンゴル国　学生　7 名　GNC スタッフ 3 名
バザルドルジセンター長、（モンゴル国立大学エコロジー教育センター）　教師、職員 3 名　センター高校生約 80 名
来賓　在モンゴル日本国特命全権大使当田達夫氏　父兄代表

2003 年秋よりエコロジー教育センターと GNC が協働で取り組んできた植物園がついに完成し、2005 年９月２２日に開園式が開かれました。数年前まではゴミなどの目立つ雑然とした場所が、今では近所の人々が散歩に訪れるような憩いの場としての素晴らしい植物園となりました。今後も、モンゴル国内に原生する全種類の植物を集めていく予定です。そしてさらに、この植物園の周辺の緑化もすすめ、この地域一体が緑化モデル地区として生まれ変わることをより多くの人々の叡智を集めて目指していきたいと思っています。在モンゴル日本国特命全権大使当田達夫氏をはじめ、学生の父母会のみなさんなど多くの方々が出席して式は盛大に行なわれました。この式の模様は当日の全国ネットのTVニュースや**新聞のトップ記事**にも取り上げられました。

今後、この植物園が、訪れた人々の心に、モンゴルの自然を愛し守ろう、という気持ちを育んでいってくれることを願っています。開園式の後にも、赤ん坊を連れて散歩に訪れた若い母親の姿を見ることができました。

宮木 GNC 代表

在モンゴル日本国特命全権大使当田達夫氏

バザルドルジセンター長

学生代表

センターで働く職員のみなさんが夏休みを返上して 2 年の月日をかけて完成した手作りの植物園です

＜全体交流会＞2005年9月22日 ビシレルトホテルにて

今回もモンゴル国立大学の学生、108学校の先生、生徒、18学校の生徒、エコロジー教育センターの方々など、たくさんの方々にご参加いただき、とても楽しいパーティーとなりました。今回もたくさんのすばらしい出会いと、そしてたくさんの方々の協力のお陰で、とても素晴らしいツアーになりました。皆様どうもありがとうございました。今後も、この出会い、皆さんとのつながりを大切にしていきたいと思います。

今回のツアーダイジェストをみなで鑑賞
楽しいエピソードがいっぱい紹介されました。

第 108 学校のボッツ君による
スピーチ彼は最年少のGNCモンゴルスタッフ会員です

第 108 学校の生徒による
日本の歌「ふるさと」デュエット

パーティー最後には　恒例になった 「幸せなら手をたたこう！」をそれぞれの国の言葉で歌って　踊りました

みなさん、来年も元気に会いましょう！

10 САЯ ТӨГРӨГ ХОЖМООР БАЙНА УУ? TV РЕАЛИТИ ШОУНД ОРОЛЦООРОЙ.
БОЛЗОЛ НЬ ЗӨВХӨН "ӨНӨӨДӨР"-Т!

TODAY ӨНӨӨДӨР

Монголын үндэсний өдөр тутмын сонин

LG - SIGMA
Elevator & Escalator company

№ 224 (2573) 2005 оны есдүгээр сарын 23, БАЯСАХ

Дуулаарс эрхлэгч Ринчинбаржав ЭНХТУЯА

Ногоон агаар...

"THE UB POST"
СОНИН ИСПАНИ ХЭЛЭЭР МЭДЭЭЛЛЭЭ ТҮГЭЭЖ ЭХЭЛЛЭЭ

Hartford
ДЭЛХИЙН БОЛОВСРОЛЫГ МОНГОЛД АВЧИРНА

新聞：Unuudur、（ウヌードル＝Today）時：2005 年 9 月 23 日
タイトル：　「緑」の空気. . .　記者名：　R.Enkh

ウランバートル市民の待望のものが出来た。それは、エコロジー教育センターにおける小さな植物園である。緑の少ないウランバートルにおいて 0.9 ヘクタールの植物園を日本の GNC と言う NGO 団体及び日本の国土緑化推進機構、モンゴル国立大学のエコロジー教育センターの皆さんが協力して作った。流れる水、小さな橋、花の温室などこの植物園には色々な楽しさが詰っている。小さな灌漑システムを備えたこの植物園の宝物はやはりモンゴルでも希少となっている Syringa valgaris,Larix sibirica,Ribes nugrim, Ulmus macrocarpa Sacura, Armenica sibirica, Amegdalus mongolica などの植物である。ここには 32 種類の 3000 本以上の木や低木類があり綺麗な空気を作りだしているだけでなく、子供や若者の環境について勉強する場ともなっている。種類毎に植えられた植物の傍に看板を立て、植物の紹介と、モンゴル国全土におけるその分布状況などを示している。　今回、本植物園は、土地獲得競争によって緑を次々となくしていくウランバートル市民にとって唯一の酸素供給の源となることを正式に発表した。「緑」の空気と緑の気持よい香りが漂う植物園の開会式には在モンゴル日本国大使 Toda Tatsuo、モンゴル国立大学エコロジー教育センター長 D.バザルドルジが挨拶をした。5 年前から、木や植物を植え始めたこの場所は今や素晴らしい植物園になっている。大事なのはこれから愛し続けることである。

（翻訳　Batbayar Nasanbilig　ナスカ　GNC 理事）

第 6 回 NGO 合同研究＆活動報告会

2 月 25 日、毎年恒例となりました他団体との『合同研究＆活動報告会』が 東京都渋谷区の国連大学内にある環境パートナーシッププラザ展示スペースにて 開催されました。早いもので、この会もことしで 6 回目を迎えました。今回、報告を行ったのは、内モンゴル沙漠化防止植林の会、砂漠緑化団体地球緑化クラブ、日本・モンゴル農業交流協会、そして GNC の計４団体です。参加した各団体はこれまでも GNC と深い関係があり、最初から活発な議論が交わされていきました。

【プログラム】　　進行　鬼木尚子さん（内モンゴル沙漠化防止植林の会）
１．開会挨拶
２．基調講演　（講演者：ハスバガン氏）
３．各団体報告（以下参照）＆質疑応答
４．意見交換
５．閉会挨拶
開催日時：2006 年 2 月 25 日（土）13：30～16：30
会場：環境パートナーシッププラザ展示スペース
参加団体：内モンゴル沙漠化防止植林の会，ＧＮＣ，砂漠緑化団体地球緑化クラブ, 日本・モンゴル農業交流協会

【基調講演】
講演者：ハスバガン氏
１９６７年内モンゴル自治区赤峰市生まれ
中国科学院リモートセンシング応用研究所研究員
国立環境研究所客員研究員
講演テーマ：衛星画像で見る内モンゴル自治区土地分布と土地利用（仮）

【各団体報告＆質疑応答】

内モンゴル沙漠化防止植林の会
テーマ：環境対策という名の下の緑化・土地の使用権転売・住民の貧困化
発表者：Ｂ．セルゲレン氏
緑化活動地：中国内蒙古自治区ホルチン沙地
（概　要）２００５年度当会で実施している緑化地－－通遼市開魯県－－では外部から大規模緑化を実施する企業団体が多く現れ、土地使用権の転売を牧民に促している。その結果、環境対策としての緑化によって、牧民が牧草地を手放し、牧草地喪失によって貧困化して行く。一方、緑化会社が緑化地を転売し、金儲けをするという実態がある。発表では当会が自立を試みる現地の牧民を支援している事業を紹介し、官と商が共謀し、住民の土地を不法占用する実態を解明したい。

ＧＮＣ

発表者：宮木 いっぺい氏

テーマ： 持続可能なモンゴル国を担う人づくりとネットワーク〔２００５年の活動報告〕

緑化活動地：モンゴル国

E（概　要） ここ数年、GNC の活動は、緊急支援型ではない長期育成型の色合いをますます強めています。具体的には、持続可能なモンゴル国を担ってゆく人材の育成やそれにつながるような活動を総合的に行っています。とりわけ、ネットワークのリーダーとなる学生と志ある若い企業家に期待しています。２００５年の２回のツアーでは、協働作業を通じて、第１８学校、第１０８学校の１０代前半の学生たち、モンゴル国立大学の２０歳前後の学生たちとのつながりを深めました。　地域の各セクターを結びつけひとつのムーブメントを起こすきっかけ作りを GNC は目指しています。

今回の報告では以上のような点に重点をおいて、GNC の２００５年の活動と今後の展望ついてお話しします。

砂漠緑化団体 地球緑化クラブ

発表者：原 鋭次郎氏　　テーマ：砂漠緑化は村おこしから

緑化活動地：中国内蒙古自治区クブチ沙漠

（概　要）　当団体は以前から砂漠緑化に最も大切なことは「その地域の人々の生活、環境を大切にすること。」と訴えてきた。団体自身も緑化を通じた地域産業の確立を目指し、村人とともに活動を続けている。ここで改めて私たちが今まで行ってきた活動を振り返ってみると、それは「村おこし」そのものではないのか？ということに気が付いた。彼らを少しでも豊かにしてあげたい。そして彼ら自身の力で村の環境を改善してもらいたい。こういった思いは活動を続ければ続けるほど強くなる。

　そこで今回は、今までの活動を振り返り、どういった活動に村人は興味を示したのか、そしてどういった活動に興味を示さなかったのか。また、彼らの気持ちの変化により、活動自身がどう変わっていったのか。そして、今後どう変わっていくのか・・・産業開発と緑化活動との接点を見つめなおし、もう一度考えてみたいと思っています。

日本・モンゴル農業交流協会

発表者：竹田 恭一氏

テーマ：

2005 年度の活動報告と今年度の事業計画など

緑化活動地：モンゴル国

E-Mail:info@jmaea.org　http://www.jmaea.org

概要）2005 年度の当団体の活動報告を行った。そして、過去３年間の活動における問題点として、①なかなか現地でのリーダーが育たない、②遊牧社会というなかで農業技術移転の難しさ・矛盾、③経済的自立をめざす、とう意思の希薄さ、④NPO 自体の活動資金の問題を挙げた。

報告会中の会場風景

今回は様々な国籍の約 15 名の方々が日本各地、世界各地から集まりました。

【意見交換】

各 NGO からの報告が終了し、そのまま続けて意見交換会を行いました。まず自己紹介をし、報告会で最後の順番となった〇〇の〇〇氏の話を受けて「」というテーマのもと議論が開始されました。

今回の報告会の所感】代表　宮木いっぺい

今回は、3 年前と同じ青山の国連大学ビル 1 階、環境パートナーシッププラザの展示スペースで、6 回目の NGO 合同研究＆活動報告会を開催しました。

共催している内モンゴル沙漠化防止植林の会と地球緑化クラブの方々と会うことは僕にとって大きな喜びです。例えれば、信頼している親友と 1 年ぶりに再会するような感じでしょうか。普段はそれぞれ別な場所で活動し、特別な連携は行っていませんが、1 年に 1 回会って、共通の志を確認し、お互いの厳しい目でチェックしあい、初心にかえる。信頼にもとづいたネットワークの原型がここにはあります。

今回は、内モンゴル、モンゴル国の両方で土地をめぐる問題、貧富の格差の問題、広く言えば経済社会の状態が悪い方向へ向かっているという危機感に満ちた報告が次々となされました。沙漠化防止、緑化、人材育成を、経済社会の大きなパースペクティブの中で位置づけ総合的に対策を講じていかなければ大変なことになる、そのために具体的にできることを協力して一刻も早くやってゆかなければならないということを確認しました。

終了後は、いつものように居酒屋で楽しいひと時を過ごしました（酒量はかなりのものとなりました！）。